

答弁書第一百号

内閣参甲第九七号

昭和二十三年五月七日

内閣総理大臣 芦 田 均

参議院議長 松 平 恒 雄 殿

参議院議員小川友三君提出開拓事業予算に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

參議院議員小川友三君提出開拓事業予算に關する質問に対する答弁書

終戦直後発足し今日に至つてゐる大規模な緊急開拓事業は、まさに今の日本としてあくまで遂行せねばならぬ事業であるので、國家財政の許す限り適切な予算措置を講じ、その遂行を期したい。

受刑者は概ね勞務者としての効率も高いので、開拓事業にもでき得る限り利用したいと考えてゐる。現在においても農業水利、土地改良等の事業には、相当数が従事し、現地において顯著な実績をあげてゐるので、今後において關係機關と緊密に連絡して遺憾なきを期したい。

開拓地は概ね酸性並びに燐酸欠乏の不良土壤で、低位生産性にあるのが現状であるが、中には土地條件に恵まれ、又開拓者の格段の努力により、順調な成績を示している地区もある。依つて現在の食糧事情より見て、かかる順調な地区に対してはその土地生産に應じて決定するよう措置をしてゐる。